

事業案内

平成29年度(2017年度)事業報告

平成30年度(2018年度)事業計画



社会福祉法人
千葉いのちの電話

24時間年中無休
相談電話 043-227-3900

CONTENTS

ごあいさつ	1
千葉いのちの電話の理念	2
平成29年度（2017年度）事業報告	3
I. 相談事業報告	
(1) 電話相談	3
(2) 自死遺族支援 わかちあいの会「ひだまり」	8
(3) 対面相談 ～こころの相談室～	9
(4) インターネット相談	10
II. 養成と研修	11
III. 公開講演会・公開講座	12
IV. 活動報告	13
V. 他機関との連携	16
平成29年度（2017年度）決算報告	17
平成30年度（2018年度）事業計画	20
会計予算書	
ボランティア相談員基礎研修講座の概要	21
千葉県いのちの電話協会	22
役員名簿	23
千葉いのちの電話役員名簿	
千葉県いのちの電話協会役員名簿	
研修専門家部会名簿	

ご支援のお願い

ごあいさつ



社会福祉法人 千葉いのちの電話

理事長 友田 直人

平成29年度も幅広い県民の皆様のご支援を賜り、ここに千葉いのちの電話の事業報告並びに平成30年度の事業計画を報告できますことを深く感謝申し上げます。

全国の自殺者数は平成15年の約34千人をピークに年々減り続け平成29年は21,321人までになりました。行政・各関係機関・地域の自殺防止対策に向けた地道で不断の努力が果たした役割は大きいと思います。一方で10代の若い人達の自殺者数は、長く横ばい状態が続き相対的に比率が上昇しているという憂慮すべき事態ともなっています。人と人の心の繋がり希薄化、SNS等コミュニケーション方法の変化による対話の減少、安心できる居場所の喪失、等指摘されていますが、解決に向け真剣に取り組むことはこの社会と私たち一人一人全ての責務です。平成28年自殺基本対策法の改正、昨年の市町村自殺対策計画策定ガイドライン通達という国の動きに呼応し、各自治体でも取組が積極的に進みつつあります。私たち千葉いのちの電話も、各機関と鋭意連携・協力するとともに、電話相談・対面相談・インターネット相談・自死遺族支援の4事業をさらに相談者にとって利用しやすくし、また相談員の質向上に向けて努力して参ります。

昨年は、研修部門と相談事業の運営部門を並立とし、それぞれ効率的に集中して推進できるよう、また迅速な意見交流ができるよう、相談員が討議を繰り返し、組織を大きく改編しました。本年はその移行の元年となります。メンバーにとっては試行錯誤を繰り返しながらの大変な道のりですが、千葉いのちの電話を時代に合った、より相談者に寄り添える、より良いものにしたいとの思いの共有をベースに、必ずや成果を上げ得るものと信じております。

一方で、私たち千葉いのちの電話にも課題が大きくなっております。相談員の高齢化、人員減、特に深夜帯要員の確保の困難などです。一朝一夕に解決できる問題だとは思いますが、現在、相談員全員の知恵を結集して対策を創り出し、24時間365日相談者の心に寄り添い、悩みに応えられるよう努力して参ります。

活動に必要な資金面でも昨年は千葉県いのちの電話協会をはじめ県民の皆様のご多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。新しく相談員を希望し研修を受講する方たちの負担を少しでも軽く、という温かいお志しのご寄付も頂きました。これらは全て千葉いのちの電話の理念の実現のためにありがたく活用させていただきます。

本年は活動を開始して29年目となります。そして来年、30周年の大きな節目に向けご支援を賜った皆様や、絶えることなく事業を推進してきた諸先輩方の思いを大切に、また次の世代へ継いでゆくことも大事な使命としっかり胸に刻みたいと思います。

末尾となりましたが、引き続き千葉いのちの電話に対するさらなるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

千葉いのちの電話の理念

千葉いのちの電話はかわりを求め、なんとか対処しようと苦悩している人たちに「私たちがここにいるよ」と表明し、寄り添いかかわりを求められる存在でありたいと望んでいます。そのために傾聴を基本の姿勢として、時には自殺まで思うほどの精神的危機にある人に寄り添い、対等な人間としてかわりを持ち支え合う相談活動をしています。また、使命の大きな柱である自殺予防のため、裾野の広い自殺予防活動を行います。

相談援助活動の4本の柱

電話相談

043-227-3900
24時間365日
年中無休

わかちあいの会
- 自死遺族支援 -

対面相談

- こころの相談室 -

インターネット
相談

◆ 千葉いのちの電話の歩み

・ 設立準備委員会発足	1988年 1 月	・ インターネット相談開始	2008年 7 月
・ 千葉いのちの電話開局	1989年10月 1 日	・ 対面相談開始	2009年 4 月
・ 千葉県いのちの電話協会発足	1990年10月20日	・ 千葉日報社会福祉賞受賞	2009年11月
・ 社会福祉法人設立認可	1993年12月28日	・ 社会貢献者表彰	2010年10月
・ 第22回いのちの電話相談員全国研修千葉大会・ 第10回アジア太平洋地域電話カウンセリング国際 会議開催	2001年 6 月13日 ～16日	・ 「震災ダイヤル」参加	2011年 3 月 ～2013年 9 月26日
・ 千葉市社会福祉功勞表彰	2005年10月	・ 「ナビダイヤル」参加	2013年 3 月
・ 自死遺族支援「わかちあいの会ひだまり」を開始	2006年11月	・ 千葉県社会福祉賞受賞	2013年12月25日
・ 新会館（CIDビル）に移転	2007年 6 月 1 日	・ 厚生労働大臣表彰	2014年 9 月27日
		・ 開局25周年記念式典	2014年10月 1 日
		・ 千葉県いのちの電話協会25周年記念式典	2015年 9 月30日

社会福祉法人 千葉いのちの電話 概況

(2018年4月1日現在)

【設 立】1989年10月 1 日

【法人認可】1993年12月28日

【組 織】理事：11名 監事：2名 評議員：22名 後援会役員：20名 監事：1名

【認定者累計】1,157名 【実動相談員数】191名 【活動ボランティア数】29名

平成29年度（2017年度）事業報告

（2017年4月1日～2018年3月31日）

はじめに

福祉サービスの提供として精神的危機に直面し、援助と励ましを求めている人びとと、主に電話という手段で対話し、健全な社会人として生活することが出来るよう援助し、その他にこれに関連するサービスを提供し、もって社会福祉の増進に寄与することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

定款（目的）第1条

この一文は、千葉いのちの電話の活動の使命や理念を表わし、定款の第1条に掲げています。私たちはこの目的の実現のために市民運動のボランティア組織ではありますが、責任ある組織として活動を継続して参りました。平成29年度の電話相談・自死遺族支援・対面相談・インターネット相談の4相談事業の活動の概要を中心に、ここにご報告させていただきます。

I 相談事業報告

（1）電話相談（2017年1月～12月）

自殺予防フリーダイヤル（毎月10日実施）

2017年1月から12月までの12か月間の総受信数は、17,992件で、昨年に比較し148件の微増となっています。男性7,819件（43.5%）、女性10,173件（56.5%）で全体の中で自殺傾向の見られるものは、2,634件（14.6%）でした。24時間・365日、一日平均49.3件受信しています。

厚生労働省の支援による、月1回（10日朝8時から11日朝8時まで）のフリーダイヤルは、1年間12回で733件（1回平均61件受信）、男性414件（56.5%）女性319件（43.5%）で通常の受信とは男女の比率が逆転します。自殺傾向は27.6%と4人に1人以上に自殺傾向がみられ、危険性が高いケースが多くなっています。

匿名でかかる性格上、年齢も不明なものが多くなっていますが、わかっている10,397件の中で、10歳未満は1名で、精神の悩みを抱えたお子さんからかかっているのが気になります。10代は312人（3%）20代は865人（8%）30代は1,576人（15%）40代は2,671人（26%）50代は2,500人（24%）60代は1,705人（16%）70代以上は767人（7%）です。10代で人生の生き方に悩んでかけてきた34件中18件（53%）に自殺傾向がみられるのは驚きです。この傾向は20代でも見られま

すが、20代は精神疾患の悩みが109件と増えて、そのうち35件（32％）に自殺傾向が見られます。若い人の自殺が増えているのと繋がっていると、強く感じます。

人生の生き方や生きがいに悩む人は4,058件と全ての世代で多くなっています。続いて家族や人間関係、精神疾患に関する悩みも多くなっています。

精神疾患が推測される方は全体の48.56％となっていて、治療を続けている方は、わかっているだけで6,481件と多くなっています。

いのちの電話は、自殺予防の大きな役割を担っているところから、自殺念慮・自殺の危険・自殺の予告通知などの傾向のある相談者には、より注意深く丁寧に対応してきました。近年自殺実行中の相談者からの受信が増えており、2017年度は13件ありました。これから実行すると予告・通告をしてきた方も、男性14人、女性30人ありました。

死ぬことを心に決め実行に移す中にも、誰かとつながりたい思いが感じられ、いのちへの葛藤と苦悩が伝わってきます。

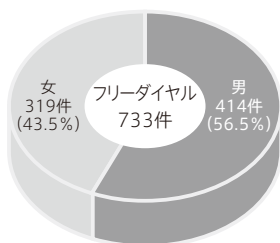
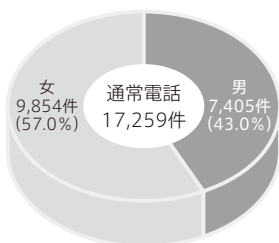
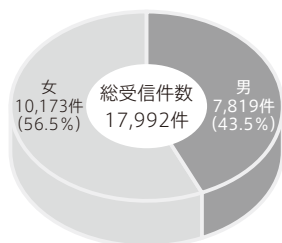
日中、深夜を問わず一日中切れ目なくかかってきますが、相談者がひとときほっとしてもう少し生きてみようと思えるように、寄り添える相談員でいたいと思っています。

◆ 電話相談事業概況

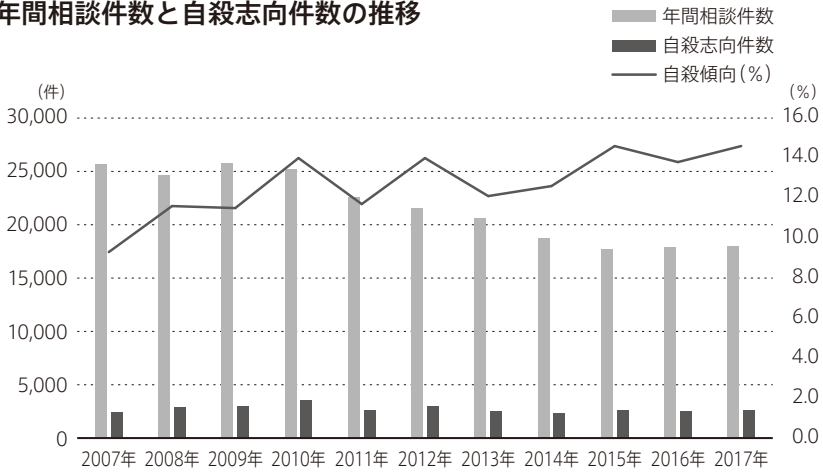
受信数			累計受信件数		
2017年1月～2017年12月			1989年10月～2017年12月		
総受信件数	17,992件		累計受信件数	631,780件	
一日平均	49.3件				
男	7,819件	43.5%	男	278,169	44.0%
女	10,173件	56.5%	女	351,567	55.7%
不 明	0件	%	不 明	2,044	0.3%

	総件数	男		女	
		件 数	%	件 数	%
通 常	17,259	7,405	43.0	9,854	57.0
フリーダイヤル	733	414	56.5	319	43.5
総 計	17,992	7,819	43.5	10,173	56.5

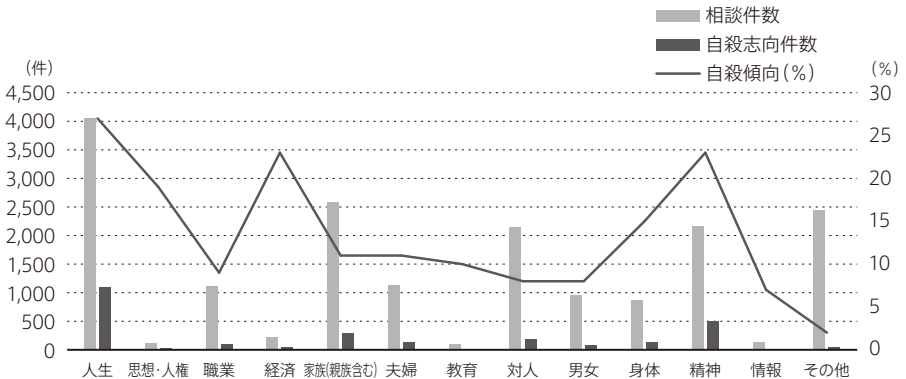
受信件数



◆ 年間相談件数と自殺志向件数の推移

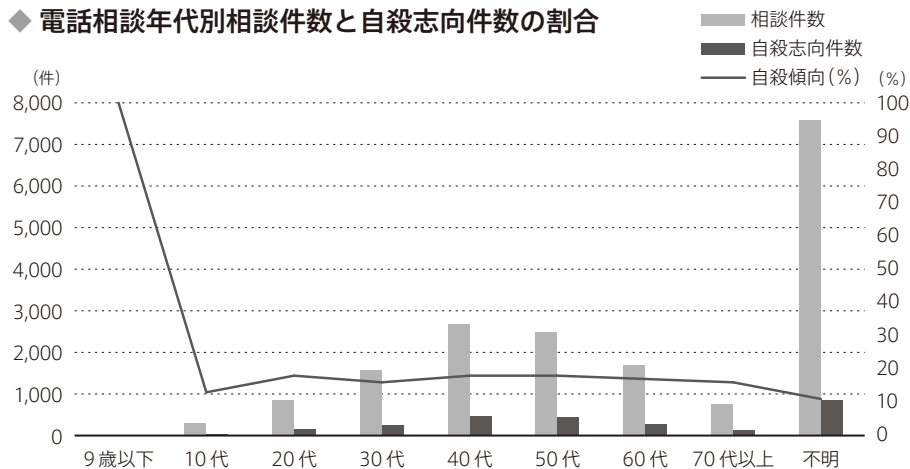


◆ 電話相談内容別相談件数と自殺志向件数の割合



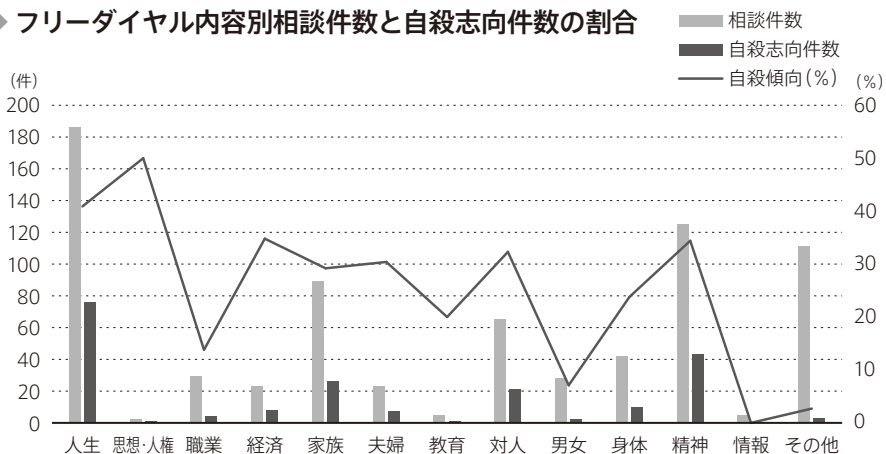
内 容	人生	思想・人権	職業	経済	家族(親族含む)	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
相談件数	4,058	112	1,112	221	2,576	1,125	93	2,150	951	860	2,160	125	2,449	17,992
自殺志向件数	1,088	21	101	50	296	127	9	178	77	131	502	9	45	2,634
自殺傾向 (%)	27%	19%	9%	23%	11%	11%	10%	8%	8%	15%	23%	7%	2%	15%

◆ 電話相談年代別相談件数と自殺志向件数の割合



項 目	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
相談件数	1	312	865	1,576	2,671	2,500	1,705	767	7,595	17,992
自殺志向件数	1	41	152	257	480	445	283	122	853	2,634
自殺傾向 (%)	100%	13%	18%	16%	18%	18%	17%	16%	11%	15%

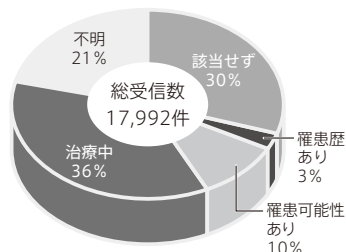
◆ フリーダイヤル内容別相談件数と自殺志向件数の割合



項 目	人生	思想・人権	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
相談件数	186	2	29	23	89	23	5	65	28	42	125	5	111	733
自殺志向件数	76	1	4	8	26	7	1	21	2	10	43	0	3	202
自殺傾向 (%)	40.9%	50.0%	13.8%	34.8%	29.2%	30.4%	20.0%	32.3%	7.1%	23.8%	34.4%	0.0%	2.7%	27.6%

◆ 精神疾患者相談件数（2017年1月～12月）

	該当 せず	罹患歴 あり	罹患可能 性あり	治療中	不明	合計
男	2,769	170	650	2,285	1,945	7,819
女	2,771	321	1,115	4,196	1,770	10,173
計	5,540	491	1,765	6,481	3,715	17,992



電話相談の中から



50代女性 未婚 母と二人暮らし 会社員

母が歩行困難になり、外出が不自由になった。
 日中誰とも話さないで、認知症が進んでいるようで心配。
 人の手を借りることを嫌がる。身内で助けてくれる人はいない。
 仕事を辞めて自分が介護をすることになりそうだが、私が倒れ
 たら、どうなるのだろう。



60代男性 夫婦 子ども一人 自営

子どもが引きこもって10年以上になる。大学出て就職もして
 張り切って通勤していた。職場の人間関係に悩んで会社に行けな
 くなってしまった。
 親としてどうかかわったらいのか悩んでいる。

※ 内容は電話相談に基づいて編集しています

(2) 自死遺族支援 わかちあいの会「ひだまり」

平成29年の自殺者数は約21,000人と8年連続減少ですが、年間を通じ、各会場とも毎回初参加者が1～2名いることから、自死遺族の悲しみの受け皿として、分かち合いの場の重要性を感じています。

柏、印旛での開催は例年通りですが、地の利と会場の認知度を考え、4月より千葉会場はCIDビルからきぼーる（千葉市中央保健福祉センター）11階に移った結果、千葉会場での参加者が1.7倍に増えました。

柏は延べ67名の参加者で平均11人が参加するため、多いときは、死別対象別のグループ或いはランダムなグループに分け、安心して語りあい分かち合いが深まるように配慮しています。また、今年は柏で定期開催している講演会の後に、講師を囲んで遺族の集いの時間を設けた結果、10数名の参加があり、講師の体験を自分たちの日頃の想いに結びつけて、交流することが出来ました。

印旛は平日ということもあり参加が少ないので当事者同士の分かち合いがむずかしく、平成30年度は開催日を2回少なくすることになりました。

また、今年度は第6期支援スタッフ養成講座を開講し、特色として近隣センターにも受講を呼びかけた結果、名古屋センターから延べ15名が参加しました。自死遺族支援の輪が広がることを期待しています。今後も、遺族が悲しみの中からでも再び生きることへと希望が持てるような「寄り添い・支え合い・分かち合い」が出来る場で有りたいと、真摯な気持ちで活動をしています。

◆ ひだまり参加人数（※茶話会）

年 度	開催回数	会場別参加数（人）						参加内訳（人）		
		千葉	習志野	柏	君津	印旛	浦安	男	女	計
2006年～2016年まで	263 (17※)	162 (9※)	15	53 (8※)	10	21	2	311 (40)	594 (121)	905 (161※)
2017年	24 (4※)	12 (2※)		6 (2※)		6		56 (5)	77 (18)	133 (23※)
計	287 (21※)	174 (11※)	15	59 (10※)	10	27	2	367 (45)	671 (139)	1,038 (184※)

◆ 平成29年度 わかちあい・茶話会

地区	開催数	参加数		計
		男	女	
千葉	12	25	25	50
柏	6	27	40	67
印旛	6	4	12	16
小計	24	56	77	133
茶話会柏	2	3	15	18
茶話会千葉	2	2	3	5
小計	4	5	18	23
合計	28	61	95	156

● 参加者の声より ●

★心から笑えない日々の中で、分かち合いの場にひとときでも身を置くだけで安らぐことができ、また生きていこうと思うことができた。

★自分の気持ちを整理するきっかけになった。

★今日をきっかけに吹っ切ろうと参加しましたが、無理をせず、もう少し自分の中でこの気持ちを温めていても良いのだなと思いました。

★守秘の約束で、安心して話せた。

(3) 対面相談 ～こころの相談室～

より多くの方々に対面相談をご利用いただくために、4月から実施日を月～土曜日とし、6月からは当日受付を開始いたしました。

対面相談実施件数は140件でした。来談者の年代別では、50～70代の女性が多く、全体の75％を占めています。相談内容別では「人生」が圧倒的多く、次に「家族」となっています。この5年間で、「対人関係」の悩みから、「自分自身に向きあう」・「生き方」などの悩みに、推移しています。このようなことに真摯に向き合える相談員の育成や、相談業務の質の向上を目指して、研鑽を重ねて参りたいと思います。

◆ 対面相談実施件数

年 度	2016年	2017年
実施件数	133	140

◆ 男女別来談者数

年 度	男	女	計
2009年～2016年	51	193	244
2017年	11	53	64
計	62	246	308

◆ 年代別来談者数

年 代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
男	2	1	5	2	1	0
女	2	5	3	15	13	15
計	4	6	8	17	14	15

◆ 相談内容別来談者数

内容分野	人生	職業	経済	家族	夫婦	対人	精神
人数	30	6	2	11	7	2	6

◆ 情報源別来談者数

情報源	地域新聞	H P	広報誌	相談員	公開講座	ポスター	その他
人数	43	7	3	4	1	1	5

◆ 自死遺族個人対面相談（於：印旛合同庁舎）

実施件数：5件	来談者数：2名（60代女性）
---------	----------------

対面相談室から

～～6月より当日受付を開始したことで～～

受付電話が鳴る。男性の落ち込んだ声で「すぐに話を聞いてもらいたい」。当日受付である。午後1時に相談室へ。怒りが顔に現れ、話と共に涙ぐむ。当日申し込まれた気持ちが伝わってくる。相談者は受け止めて貰えたことで、表情も穏やかになり、落ち着かれていく様子だった。担当者としてそこに居る意味を感じ、当日受付の必要性を強く強く感じた。



(4) インターネット相談

昨年度はシステムの不具合により受信できない期間があり受信数が減少したが、今年度はほぼ回復し、受信数は200を超えた。相談者の年代は20代、30代、40代が中心であるのは例年と変わらないが、10代が前年4件から26件に増えた。10代の相談内容は、進路や学校生活、生き方の悩みが多く、その背後に家族関係（父親、母親）に関する問題があることがうかがえる。また性に関しての相談もあった。若い方の思いを受けとめることの難しさやメールで対話することの難しさをあらためて感じさせられた。全受信の地域別では千葉県在住が大半である。この傾向は変わっていない。また相談内容は、多岐にわたっているが、その内でも人生に分類されるものが最も多く、家族・家庭に関することと、保健・医療の内、特に精神疾患に関連した相談がこれに続いている。相談回数は2～3往復できたものが4割であった。この割合は前年とほぼ同じである。必要な相談が継続されるようになるために、事例検討など一層の学びが必要であると思う。また自殺傾向からみると、念慮、危険、予告と合わせると全体の38%になる。

3月には、2名が新たに認定され、相談員は14名になった。新年度からは返信期間を少し短縮できるようになると思う。また、新年度からは専任の指導者がネットを担当されることになった。この一年、多くの先生方のご協力により継続研修及び認定試験を滞りなく実施することができたことを感謝をもって報告する。

<2017年度千葉いのちの電話インターネット相談受信統計>

■ インターネット受信数と男女別

年 度	受信総数	男	女	不明
2017	204	61	130	13

■ 年代別受信数

年 代	9才以下	10才	20才	30才	40才	50才	60才	70才以上	不明
人 数	0	26	44	52	48	14	2	0	18

■ 地域別受信数

千葉県：169	その他：11	不明：24
---------	--------	-------

■ 相談回数別

1回：109	2回：65	3回：30
--------	-------	-------

■ 相談内容別

内容分野	人生	経済・社会	家族・家庭	人間関係	保健・医療	その他
大項目	人生／人権	職業／経済	家族／夫婦／教育	対人／男女	身体／精神	情報他
相談数	65	21	52	26	40	0

■ 自殺傾向

なし	念慮	危険	予告	実行中	不明
100	70	6	2	0	26

Ⅱ 養成と研修

(1) ボランティア相談員の養成

①第30期 ボランティア相談員養成基礎研修講座

第Ⅰ課程 いのちを育む対人援助の視点

10/2 オープンダイアログとは何か

(齋藤環氏)

10/18 ボランティアマインド／自殺について

(永原伸彦氏／日下忠文氏)

10/25 自殺の予防・生きる意味／人間関係の理解①

(佐藤俊一氏)

11/1 人間関係の理解②

(米村美奈氏)

11/18～19 宿泊研修

(佐藤俊一氏)

第Ⅱ課程 心の通い合う対人的かかわりの基本

12/6～1/31 講義・ワーク

(木村登紀子氏／米村美奈氏)

第Ⅲ課程 自殺という危機への介入

2/24 スピリチュアル・ケアのこころ

(窪寺俊之氏)

2/28 精神障害と自殺念慮について／インターネット相談

(亀井雄一氏／後澤京子氏)

3/7 心の相談の実際

(末松渉氏)

3/14 自死遺族支援 一遺された人の声を聴く

(藤井忠幸氏)

3/27 電話相談の特色と実際

(西浦加代子氏)

②第29期ボランティア相談員養成基礎研修講座

第Ⅲ課程 3月～7月 講義・グループワーク

第Ⅳ課程 8月～2月 電話相談実習・グループワーク

③インターネット相談事業 7期養成研修 認定者2名

④7期電話相談研修ボランティア養成研修

7/2 (面接) 7/23～3/25 (月2回実施) 講義・グループワーク

(講師：友田直人氏・佐藤俊一氏・亀井雄一氏・勝山修一郎氏・木村登紀子氏
西浦加代子氏、藤井忠幸氏)

⑤6期自死遺族支援スタッフ養成研修

10/3～3/6 計10回実施

(講師：清水新二氏・福山清蔵氏・藤井忠幸氏・吉久小夜子氏)

3/22 認定面接 認定3名 (名古屋センター1名修了証)

(2) 相談員の研修

①電話相談員研修 (1期生～27期生)

毎月1回 (4月～2月) 16グループ (2回専門家による研修)

講師：鉦鹿健吉氏・勝山修一郎氏・木村登紀子氏・末松渉氏・永原伸彦氏・西浦加代子氏
福山清蔵氏・米村美奈氏

②電話相談研修担当者研修

継続研修 年9回 講師：西浦加代子氏

③自死遺族支援員研修

継続研修 年6回 (6/6、7/18、9/5、11/15、1/17、3/20) 講師：藤井忠幸氏

④対面相談員研修

継続研修 年9回 (4/9、5/14、6/11、7/9、9/10、10/8、11/12、1/14、2/14)

講師：勝山修一郎氏

個人スーパービジョン 11名

⑤インターネット相談員研修

継続研修 年8回 (5/27、6/7、7/25、9/30、11/23、12/10、1/29、2/28)

講師：日下忠文氏・有馬和子氏・風間洋子氏・磯辺聡氏・石川真紀氏

⑥事例検討研修会（講師：西浦加代子氏）

第1回 11/24 「母親が、まだこちらに来るなという」についての相談事例

第2回 2/27 「落ち込むと自分がダメと思い詰め、自傷行為のあるケース」についての相談事例

⑦相談員ブラッシュアップ研修（郵政年賀寄附助成事業）

前期：基礎力開発研修 4/24～9/11（6回）（講師：佐藤俊一氏）

後期：9/23・11/25（講師：三橋和弘氏）

1/30・2/21（講師：鉅鹿健吉氏）

⑧フリーダイヤル研修（厚生労働省補助事業）

3/24 講師：永原伸彦氏（茨城カウンセリングセンター所長）※認定式講演会を兼ねる

⑨外部研修

・研修担当者合同研修会（東京）（9/2、10/7、12/2）

・自死遺族ケア団体全国ネットサポーター研修会（9/29）

・自死遺族ケア団体全国ネットスタッフ研修会（3/3）

・自死遺族支援事業実施センター合同研修会（1/29）

Ⅲ 公開講演会・公開講座

(1) 公開講演会 『遺された“いたみ”とともに』

講師：ボランティア ※同時開催：対面相談

実施日：平成29年7月14日（金）13:30～14:40 対面相談＝14:50～16:00

会場：館山市コミュニティセンター 参加者：27名 対面相談者：2名

(2) 公開講演会 「元気なココロの作り方～その悩み ひとりで抱えていませんか？～」

講師：香山リカ氏（精神科医）

実施日：平成29年12月2日（土）10:15～12:00

会場：山武市役所 大会議室 参加者：126名

(3) 公開講演会 「オープンダイアログとは何かー開かれた対話の力ー」

講師：齋藤環氏（筑波大学教授・精神科医）

実施日：平成29年10月2日（月）13:30～15:30

会場：千葉市民会館 小ホール 参加者：226名

※30期養成講座第1回を兼ねる

(4) 第22回自死遺族支援公開講演会（柏市共催）

「大切な人を自死でなくした体験から伝えたい事」

講師：木下宏明氏

（岐阜自死遺族の会千の風の会代表）

実施日：平成29年12月16日（土）13:30～15:00

会場：アミューゼ柏 1階プラザ 参加者：50名



齋藤環氏

(5) フリーダイヤル公開講演会（厚生労働省補助事業）

「スピリチュアルケアの心～いのちを育む力・委ねる力～」

講 師：窪寺俊之氏（聖学院大学 客員教授）

実施日：2月24日（土）13：30～15：30

会 場：プラザ菜の花ホテル 参加者：110名



窪寺俊之氏

IV 活動報告

1. 理事会・評議員会の開催

理 事 会 5月16日・6月7日・10月17日・3月14日

評議員会 6月7日・11月7日・3月28日

主な議案 平成28年度事業報告・決算報告・評議員選任解任委員会 役員選任
評議員の選任・平成30年度事業計画・予算

2. 千葉いのちの電話「ボランティアの集い」開催

日 時：10月1日（日）15:00～

場 所：千葉市美術館内レストラン

・基調講演：林 義子氏（東京いのちの電話理事）

「いのちの電話基本理念」一生い立ちから未来に向けてー

・功労者表彰（元監事：影山成己氏・井桁和夫氏）

・永年10年（15名）／20年表彰（6名）／団体（手作り会）



林 義子氏

3. 認定証交付式

日 時：3月24日（土）13:30～

29期電話相談員認定（11名）

7期インターネット相談員認定（2名）

記念講演「あなたの人生を支える いのちの電話運動」

永原伸彦氏（茨城カウンセリングセンター 所長）



認定証交付式



永原伸彦氏

4. 部会・委員会活動

(1) 合同部会

平成30年度事業計画・予算についての検討
理事会・評議員会への提出議案の検討

(2) 総務部会

- ①千葉いのちの電話ボランティア全体会の開催（10月1日）
- ②新運営懇談会（月1回）の開催
- ③29期認定証交付式主管（3月24日）
- ④平成30年度事業計画・予算作成の主管

(3) 企画調整部会

- ①県下各地域での広報活動として、行政と連携をしながら無料公開講演を実施した。
- ②31期相談員募集作業の準備
- ③組織整備（30年度へ継続検討）
 - ・表彰内規の作成
 - ・委員会等設置規程の作成

(4) 研修委員会

- （5/31・10/11・1/24・3/13）
- ・29期養成講座について（第Ⅲ課程判定、第Ⅳ課程、認定）
 - ・復務届けなどの書式統一について
 - ・第7期電話相談研修ボランティア養成について
 - ・30期ボランティア養成について（第Ⅰ・第Ⅱ・第Ⅲ課程）
 - ・ネット相談講師の選任について
 - ・電話相談員認定後2年間電話に専念することについて
 - ・3事業研修ボランティア養成について
 - ・基礎力開発研修について
 - ・31期養成講座募集要項について

(5) 研修ボランティア部会

- （5/1・5/29・7/31・9/4・12/4・1/22・3/5）
- ・4事業共通「休務届・復務届・復務希望届」書類の作成
 - ・全体研修会の実施 講師：鋸鹿健吉氏 ①2018.1.30 ②2018.2.21
 - ・7期電話相談研修ボランティア養成講座1年目の実施（3年計画）
講師：佐藤俊一氏 勝山修一郎氏
 - ・3事業合同研修ボランティア養成講座について
 - ・29期認定チーム会議の開催（専門家部会との合同会議）

(6) 研修担当委員会

- ・継続研修16グループ（1～27期）年2回専門家による研修
- ・研修担当者継続研修（講師：西浦加代子氏）
- ・研修担当者スーパービジョン（講師：西浦加代子氏）
- ・事例検討研修・フリーダイヤル研修開催
- ・相談員のケア・資料・統計資料の作成

(7) 広報委員会

広報誌「いのちの電話・ちば」	第65号	6月発行	2,000部
	第66号	11月発行	2,000部

(8) 事業委員会

第15回ふれあいチャリティーコンサート 協力6/29

第26回千葉いのちの電話 2017年チャリティーコンサート 協力11/29

(9) 相談員委員会

①役員会・相談員委員会の開催 毎月第3日曜日10:00~12:00

・相談活動の活性化・相談員同士の交流

②24時間365日の活動を維持するため、電話当番者の調整

③理事長と相談員の懇親会開催 (7/16(日) 11:00~15:00)

④10年・20年表彰式 10/1(日) 15:00~17:00 かぼちゃわいん

⑤相談員の情報共有と危機管理の徹底(防災訓練・防災備品管理等)

⑥局外活動(千葉市ボランティア連絡協議会 会議・総会・健康づくりフェスティバル参加市民活動センターフェスティバル)

(10) 自死遺族支援事業委員会

わかちあいの会・茶話会の開催

継続研修

公開講演会の開催

連盟 合同研修会 担当

三つ折りリーフレットの作成

地域新聞掲載

(11) 対面相談事業委員会

対面相談実施(印旛合同庁舎・自死遺族個人対面相談)

養成研修・継続研修・健康づくり大会参加

地域新聞掲載

(12) インターネット相談事業委員会

インターネット相談実施

養成研修・継続研修

三つ折りリーフレットの作成

(13) フリーダイヤルプロジェクト

厚生労働省補助事業について役割分担して実施

JR東日本協力により千葉駅前広報活動(9月11日)

公開講演会の開催(2月24日)



フリーダイヤル千葉駅前広報活動

(14) 相談員委員会5帯検討チーム

懸案だった深夜担当問題について検討。

・深夜担当およびボランティア活動に関するアンケート調査を実施

・トライアル案の実施

担当1名の場合、危機管理担当者として宿泊サポーターの協力
フリーダイヤル深夜担当の交替時間の調整

(15) OB会

毎月1回定例会

クリスマス会の開催

(16) 事務局

事業計画の円滑な推進に協力・千葉市・関係機関との連携・諸会議出席
連盟会議出席
ハウレンソウ編集・作成
ホームページ改訂

V

他機関との連携

1. 一般社団法人日本いのちの電話連盟

- (1) 第45回定期総会に出席（5/26）
- (2) 事務局長会議に出席（5/27）
- (3) 日本自殺予防シンポジウム（つくば）に参加（9/24）
- (4) 関東甲信越ブロック会議（栃木）参加（8/17）
- (5) インターネット相談運営委員会に参加（3/16）
- (6) JR東日本いのちのホットラインに参加（3/17～18）
- (7) フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」に参加
毎月10日 0120-783-556（後援・厚生労働省）
- (8) いのちの電話ナビダイヤルに参加「0570-783-556」
- (9) 自死遺族支援合同連絡会議に参加（5/8）

2. 千葉県諸機関との連携

- (1) 自殺対策支援連絡協議会のメンバーとして会議に出席
（千葉県・千葉市・浦安市・柏市・市川市・船橋市）
- (2) 千葉県精神保健福祉協議会にメンバーとして参加
（心のふれあいフェスティバル（5/17）・心の健康フェア（11/15））
- (3) 千葉県精神保健福祉センター（電話相談に関する情報交換会）参加
- (4) 千葉県安全安心まちづくり推進協議会に出席
- (5) 八千代市健康まちづくりプラン推進評価委員会に参加
- (6) 千葉市ボランティア連絡協議会の関連行事に参加
- (7) 千葉市社会福祉協議会の関連行事に参加
- (8) 千葉市保健医療事業団の健康づくりフェスティバルに参加

長い間、千葉いのちの電話にご協力いただきました。

謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

千葉県いのちの電話協会	副会長	荒井勢津子 様
千葉いのちの電話	評議員	

平成29年度（2017年度）決算報告

1. 一般会計

■ 貸借対照表（平成30年3月31日現在）

（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	22,952,953	流動負債	35,880
現金	97,174	預り金	30,630
普通預金	21,034,511	職員預り金	5,250
事業未収金	1,819,000	負債の部合計	35,880
立替金	2,268	純 資 産 の 部	
固定資産	157,030,042	基本金	145,812,651
基本財産	123,626,007	その他の積立金	32,000,000
土 地	59,500,000	修繕積立金	24,000,000
建 物	64,126,007	備品等購入積立金	2,000,000
その他の固定資産	33,404,035	ボランティア養成積立金	6,000,000
構築物	1	次期繰越活動増減差額	2,134,464
器具及び備品	58,644	（うち当期活動増減差額）	4,615,572
電話加入権	536,372		
ソフトウェア	809,018		
修繕積立預金	24,000,000		
備品等購入積立預金	2,000,000		
ボランティア養成積立預金	6,000,000		
資産の部合計	179,982,995	純資産の部合計	179,947,115
		負債及び純資産の部合計	179,982,995

■ 資金収支計算書（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

（単位：円）

	科 目	予 算	決 算	差 異
事業活動による収支	相談事業収入	12,349,000	11,613,733	735,267
	経常経費寄附金収入	6,000,000	12,290,447	△ 6,290,447
	受取利息配当金収入	3,000	2,399	601
	その他の収入	1,990,000	1,000,720	989,280
	収 入 計	20,342,000	24,907,299	△ 4,565,299
	人件費支出	7,021,000	5,883,385	1,137,615
	事務費支出	12,128,000	10,029,765	2,098,235
	支 出 計	19,149,000	15,913,150	3,235,850
	事業活動資金収支差額	1,193,000	8,994,149	△ 7,801,149
施設整備等による収支	施設整備等収入	0	0	0
	施設整備等支出	0	758,916	△ 758,916
	施設整備等資金収支差額	0	△ 758,916	758,916
その他の活動による収支	その他の活動収入	0	0	0
	修繕積立預金支出	1,000,000	1,000,000	0
	ボランティア養成積立預金支出	0	6,000,000	△ 6,000,000
	その他の活動資金収支差額	△ 1,000,000	△ 7,000,000	6,000,000
	予 備 費	193,000	—	193,000
	当期資金収支差額合計	0	1,235,233	△ 1,235,233

前期末支払資金残高	21,681,840	21,681,840	0
当期末支払資金残高	21,681,840	22,917,073	△ 1,235,233

監査報告書

社会福祉法人千葉いのちの電話
理事長 友 田 直 人 様

平成30年 5 月21日

監事.....大 森 薫 (印)

監事.....松 本 守 次 (印)

私たち監事は、平成29年 4 月 1 日から平成30年 3 月31日までの平成29年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告等（事業報告及びその付属明細書）について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告等及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純財産の増減の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

■ 平成29年度補助金等内訳

(単位：円)

千葉県（電話相談員研修費）	1,131,000	自死遺族支援事業	
千葉県（地域自殺対策強化事業費）	403,000	千葉県受託事業	1,748,000
千葉市（電話相談員研修費）	427,999	柏市	285,000
千葉県共同募金会	679,000	千葉市	83,733
千葉市社会福祉協議会	20,000		
郵政年賀寄附	500,000		

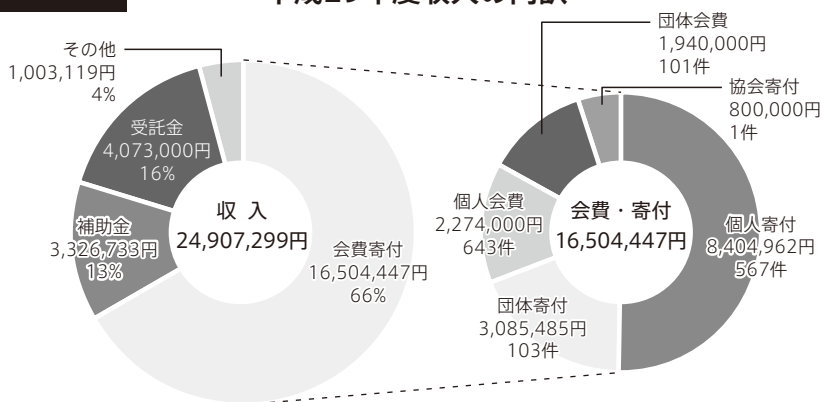
■ 後援団体寄付金

(単位：円)

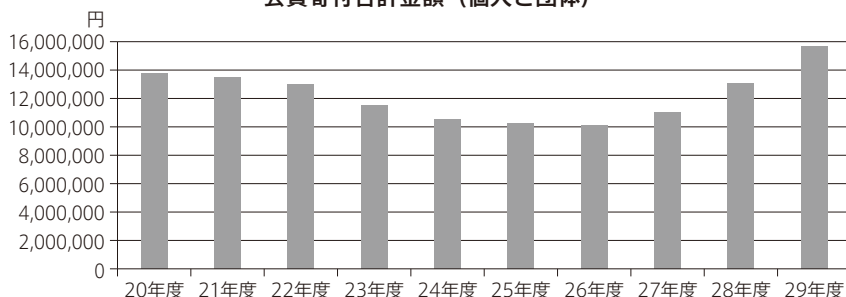
千葉県のいのちの電話協会	800,000
--------------	---------

財務報告

平成29年度収入の内訳



会費寄付合計金額 (個人と団体)



平成29年度の収入は24,907,299円。このうち、会費寄付が66%で昨年より約260万円増えている。補助金及び受託金収入の合計は29%で、その他4%の収入は受講料や施設使用料などである。会費寄付収入は長年減少を続けてきたが、27年度以降は、遺産寄付や個人の篤志家による大口寄付によって少しずつ増加に転じている。今後ともこうした新しい寄付の方法を模索していく必要がある。

■大口団体寄付 (年間5万円以上) ありがとうございました。 敬称略 (アイウエオ順)

I.T.A. システム、上野社会保険労務士事務所、カトリック市川教会、カトリック西千葉教会、金坂医院、京葉銀行社会活動推進室、京葉銀行小さな親切運動推進本部、(一社) 生命保険協会千葉県協会、千葉県税理士会愛のボランティア会、千葉県流通商防犯協力会、千葉興業銀行ともしびの会、千葉市民懇話会、千葉テレビ放送、千葉西ロータリークラブ、千葉ロータリークラブ、椿森タクシー、東邦大佐倉病院看護部、長谷川化学工業、連合千葉

平成29年度は、ボランティア受講生の負担を少しでも軽く、という主旨のご寄付をもとに「ボランティア養成積立金 (600万円)」を開設させていただきました。お志に添うよう大切に活用させていただきます。どうもありがとうございました。

平成30年度（2018年度）事業計画

I. 基本方針

- (1) 基本理念の浸透
 - ・ 善良な市民による自らの意思に因る
 - ・ 無償の行為による自殺予防活動
- (2) 千葉いのちの電話の周知（広く県民に対する周知）
 - ・ ボランティアへの参加促進
- (3) 組織の点検・組織化の推進
 - ・ 内規・組織図・社会的ニーズに呼応するため
- (4) 施設整備の計画化
 - ・ 建物・設備の点検と整備計画
 - ・ 法令に基づく点検整備
 - ・ 整備資金積立の実行
- (5) 財政基盤の検討と健全化
 - ・ 各種助成団体の調査
- (6) 30周年記念事業の計画化
 - ・ 30周年事業プロジェクトチームの設置と計画化

II. 事業目標

(1) 研 修

① 研修委員会

各相談事業の養成・研修プログラム全体の策定及び実施、新規相談員の認定及び相談員の適否の認定、相談員募集方針の策定等を行う。

② 研修専門家部会

研修に関する事項や課題について専門家の立場から協議し、必要な提言・提案を行う。基礎研修講座受講者・各種ボランティア相談員等の判定や認定に関するものを行う。

③ 研修ボランティア部会

4事業合同の研修を行う。

④ 電話研修担当

電話相談ボランティア精神（今ここでの掛け手を聴く）の再確認と電話相談員の質の向上を目指す。

⑤ 対面相談

対面相談員の養成と現対面相談員の質の向上を目指す。

⑥ 自死遺族支援

支援スタッフの質の向上と、遺族が直面する各種問題の現状と支援のあり方を学ぶ。

⑦ インターネット相談

インターネット相談員の養成と、現インターネット相談員の質の向上を目指す。

(2) 相談事業

① 電話相談事業

電話担当が円滑に進むよう調整業務等を行う。

② 対面相談事業

千葉いのちの電話対面相談の幅広い周知を図る。

③ 自死遺族支援事業

自死遺族支援「わかちあいの会ひだまり」の継続と充実を図る。

④ インターネット相談事業

円滑なインターネット事業の運営を図る。

平成30年度（2018年度） 一般会計予算書

平成30年4月1日～平成31年3月31日

科 目	予算額
【収入の部】	(単位：円)
会費収入	4,280,000
補助金収入	3,003,000
受託金収入	3,985,000
寄付金収入	5,655,000
雑収入	1,477,000
ボランティア養成 積立金繰入収入	600,000
当期収入合計	19,000,000
※前年度繰越金	
収入合計	19,000,000
【支出の部】	(単位：円)
人件費支出	7,672,000
事務費支出	11,013,000
修繕積立金	0
予備費	315,000
当期支出合計	19,000,000
当期収支差額	0
※前年度繰越金	
支出合計	19,000,000

(3) 運 営

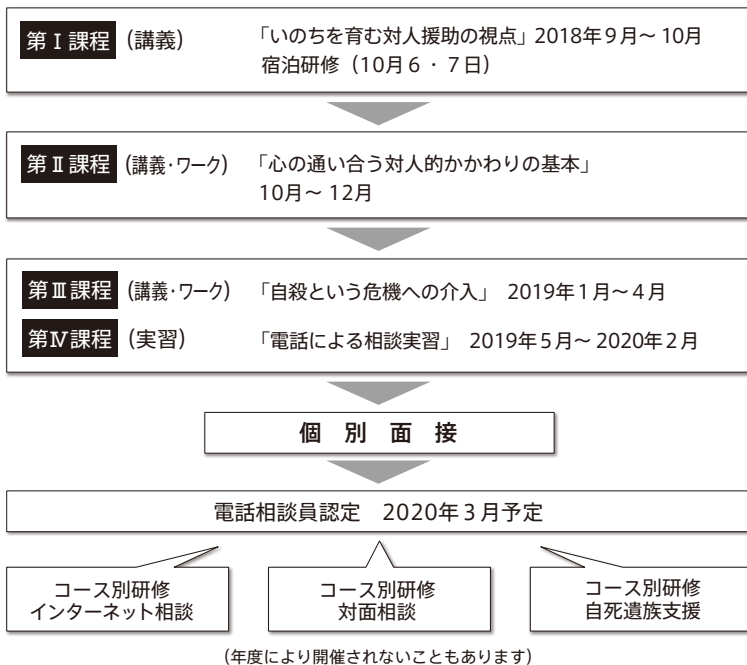
- ①千葉いのちの電話を支援するために「千葉県いのちの電話協会」と連携する。
- ②いのちの電話の存在と活動を広く知らしめる。
- ③事業計画、予算を中心に各委員会等の円滑な事業の遂行を図り、活動全体の調整をする。30周年記念事業の計画化、財政基盤の開拓を目指す。
- ④行政・社会福祉協議会と連携した講演会開催により、千葉いのちの電話の認知度を高める。あわせて相談員の募集を行う。
- ⑤事業計画・予算に則った各事業の円滑な推進を図る。

2018年度 第31期ボランティア相談員基礎研修講座の概要

相談ボランティアになるには

- 年齢20歳以上（2018年4月1日現在）
- 資格・経験は不問（電話相談及び各種研修に参加できる心身ともに健康な方）
- 基礎研修講座第Ⅰ～第Ⅳの各課程を原則全出席と宿泊研修に出席できること

第31期ボランティア相談員養成講座の流れ



（年度により開催されないこともあります）

養成講座講師予定：上田将史氏、勝山修一郎氏、亀井雄一氏、木村登紀子氏、佐藤俊一氏、清水新二氏、末松 渉氏、永原伸彦氏、西浦加代子氏、藤井忠幸氏、米村美奈氏 他

千葉いのちの電話の相談員としての適性を考慮し、各課程ごとに判定を行います。

※ 詳しくは、事務局へお問い合わせください。

千葉県いのちの電話協会

「千葉県いのちの電話協会」は社会福祉法人千葉いのちの電話の後援会です。

千葉いのちの電話の財政的支援を主として各種支援事業（活動ボランティアによる手づくり作品の販売・チャリティバザーなど）を行っており、年2回開催するコンサートは収益事業であると共に、幅広く地域の皆様へ千葉いのちの電話の活動にご理解とご支援をお願いする広報活動でもあります。1990年10月の結成から27年目を迎えることができ、これまでご支援を頂いた皆様には深く感謝申し上げます。尚、新会長に橋本祐壽奈氏を迎え一層しっかりと支援に努めて参ります。

★第15回千葉いのちの電話ふれあいチャリティコンサート

平成29年6月29日（木）千葉市文化センター アートホール
田嶋陽子 歌とトーク

★第26回千葉いのちの電話 2017年チャリティコンサート

平成29年11月29日（水）習志野文化ホール
クミコ 愛の歌



2017年チャリティコンサート

★手づくり会・バザー部

手芸の好きな仲間が月に数回集まり、作品を作り、コンサート会場やバザー等で販売し、千葉いのちの電話を側面から支援しています。

★イオン社会貢献事業

幸せの黄色いレシートキャンペーン参加



バザー（千葉矯正展）

平成30年度 コンサートのご案内

- ◆ 第16回千葉いのちの電話ふれあいチャリティコンサート
6月28日（木）千葉市文化センター アートホール
門戸竜二 ～にじいろコンサート in 千葉～
- ◆ 第27回千葉いのちの電話 2018年チャリティコンサート
11月29日（木）千葉市民会館大ホール
錦織 健（テノール歌手）

■大口団体寄付（3万円以上）をありがとうございました。

敬称略

千葉銀行 千葉興業銀行 千葉信用金庫
小さな親切運動ちばぎん支部

社会福祉法人千葉いのちの電話 役員名簿 (敬称略)

平成30年7月1日

顧問

佐藤 甫夫 長谷川 匡俊	元千葉大学医学部 教授 学校法人大乘淑徳学園 理事長	磯岡 哲也	淑徳大学 学長
-----------------	----------------------------------	-------	---------

理事長

友田 直人	社会福祉法人千葉ベタニヤ ホーム 理事長
-------	-------------------------

理事

岡田 眞一	千葉県精神保健福祉センター センター長	藤田 幸子 松崎 泰弘	千葉いのちの電話 事務局長 日本社会事業大学 常務理事 社会福祉法人 一粒会 監事
北原 悦子 日下 忠文 佐藤 俊一 清水 新二	千葉いのちの電話ボランティア 日下医院 院長 淑徳大学 教授 日本社会病理学会 会長 放送大学客員教授	三橋 和 水鳥川 洋子	一般社団法人 日本いのち の電話連盟 監事 千葉県若人自立支援機構 専務理事
灰谷 由利子	千葉いのちの電話 前事務局長		

監事

大森 薫	大森税理士事務所 所長	枡本 守次	元千葉県民生委員児童委員 協議会 事務局長
------	-------------	-------	--------------------------

評議員

青木 一芳 今井 一雄 大木 三雄	千葉YMCA 理事 今井法律事務所 弁護士 千葉市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長	高長谷 トミ子 津田 祐子	株式会社高長谷商店 取締役 NPO法人VAICコミュニ ティケア研究所 副理事長
小谷 裕	日本労働組合総連合会 千葉県連合会 会長	長谷川 昌江 寺口 恵子	元千葉いのちの電話ボランティア 公益社団法人 千葉県看護協会 常任理事
金子 恵一	社会福祉法人千葉県社会 福祉協議会 事務局長	花崎 みさを	養護施設 野の花の家 統括施設長
加瀬 紘男	株式会社 椿森タクシー 代表取締役	藤本 正弥	一般社団法人 生命保険協会 千葉県協会 事務局長
加藤 福子 岸 憲秀 小柳 光廣	元千葉いのちの電話ボランティア 千葉YMCA 理事長 一般社団法人千葉県労働 者福祉協議会 常務理事	吉松 靖子 渡邊 茂	元千葉いのちの電話ボランティア 公益財団法人千葉市保健医療 事業団 専務理事兼事務局長
近藤 龍雄	NPO法人千葉県精神障害者・ 家族会連合会 副理事長		
斉藤 理	医療法人グリーンエミネンス 中村古峽記念病院 看護部長		
佐々木 克朗	社会福祉法人 千葉県共同募金会 事務局長		
鈴木 和成 鈴木 國雄	鈴木測量株式会社 取締役社長 千葉県年金受給者協会 副会長		

千葉県いのちの電話協会（後援会） 役員名簿（敬称略）

平成30年 7月 1日

顧問

白井日出男	元衆議院議員	青柳俊一	千葉興業銀行 取締役頭取
篠崎忠義	千葉銀行 取締役専務執行役員	宮澤英男	千葉信用金庫 理事長
綿貫弘一	京葉銀行 相談役	赤田靖英	千葉日報社 顧問

相談役

阿部紘一	千葉県議会議員	佐久間隆義	元市原市 市長
潤間丈助	ウルマビル株式会社代表取締役	堀江はつ	元千葉県議会議員
小川善之	元千葉市議会議員	米持克彦	千葉市議会議員

名誉会長

安田敬一	公益財団法人安田教育振興会 理事長
------	----------------------

歴代会長

川島教昭	株式会社稲毛自動車教習所 代表取締役会長
------	-------------------------

会長

橋本妊壽奈	千葉県明るい選挙推進協議会会長 成田ユネスコ協会婦人部長
-------	---------------------------------

副会長

鈴木和成	鈴木測量株式会社 取締役社長	吉成庸子	作家・エッセイスト
島田行信	学校法人市川学園 理事		

理事

天野和子	千葉いのちの電話活動ボランティア	徳丸伸弥	東日本旅客鉄道株式会社
遠藤宏	株式会社シティハウス 代表取締役		千葉支社総務部 サービス
岡田勝	特定非営利活動法人 地域創造		品質改革室長
	ネットワークちば 理事長	豊田重俊	有限会社豊工業 取締役
岡部文彦	新千葉法律事務所 所長	松原淑子	千葉いのちの電話活動ボランティア
小野成己	株式会社ブランド東葉 代表取締役	三浦文江	千葉いのちの電話活動ボランティア
影山成子	税理士法人影山会計事務所 所長	水上明美	株式会社ベイキューブシー
日下忠文	日下医院 院長		代表取締役
	千葉いのちの電話 理事	山口悦子	千葉いのちの電話活動ボランティア
齊藤朝江	有限会社エダブン 代表取締役		
重宗光子	千葉いのちの電話相談ボランティア		
友田直人	社会福祉法人千葉いのちの電話 理事長		
	千葉ベタニヤホーム 理事長		

監事

大森 薫	大森税理士事務所 所長
------	-------------

研修専門家部会

上田将史	亀田総合病院 臨床心理士	西浦加代子	元ルーテル学院大学付属
勝山修一郎	千葉カウンセリングセンター センター長		PCG カウンセラー
木村登紀子	聖路加国際大学 名誉教授	藤井忠幸	自死遺族ケア団体全国ネット代表
	桜クリニック 臨床心理士		
佐藤俊一	淑徳大学 教授		

ご支援のお願い

●あなたのご支援を必要としています

千葉いのちの電話の活動は、多くの善意あるボランティアの無償の奉仕によって支えられています。24時間365日眠らぬダイヤルの維持や建物管理、研修生の訓練や相談員の継続研修、広報活動などのために、年間約1,900万円の経費が必要となっております。

現在、全国の自殺者は警察庁の発表によると平成29年は21,321人、千葉県内では985人になっています。「死にたい!」と訴える相談者のころは、「生きたい! 助けて!」です。その声に寄り添うために、一人でも多くの方に資金ボランティアとして千葉いのちの電話を支えてくださいますようお願い申し上げます。

●ご寄付の税額控除について

千葉いのちの電話への寄附金については税額控除が受けられます。税額控除証明書を領収書と一緒に印刷しておりますので、確定申告の際にはどうぞご活用下さい。詳細は事務局までおたずねください。

●維持会員・寄付のお願い

- ◆個人会員 年額1口 2千円（何口でも）
- ◆団体会員 年額1口 1万円（何口でも）
上記の額を毎年継続して納入して頂ける個人や団体
- ◆寄付者会員 この社会福祉法人の主旨に賛同して頂き、寄付金を納入していただける方、金額は問いません。

《お振込は下記のいずれかをご利用ください》

- ・郵便振替 / 00110-0-366563
「社会福祉法人 千葉いのちの電話」
- ・銀行振込 / 千葉銀行 県庁支店 004（普）2115973
京葉銀行本店 080（普）8897411
千葉興業銀行千葉支店 111（普）6182171
千葉信用金庫本店 001（普）0580786
口座名は「社会福祉法人 千葉いのちの電話 理事長 友田直人」

社会福祉法人 千葉いのちの電話 事業案内

発行日 2018年7月1日
発行者 理事長 友田直人
事務局 〒260-0012
千葉市中央区本町3-1-16 CIDビル
TEL 043-222-4416・4322
FAX 043-227-6911
<http://www.chiba-inochi.jp>
E-mail ll-chiba@chiba-inochi.jp
エルエル

